

## 海外安全対策情報（2023年4月～6月：コロンビア）

### 1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

#### （1）全般

2023年上半期の全国統計によれば、殺人事件は3%減少しているが、強盗・窃盗事件は23%増加し、誘拐事件は164%も増加している。都市部での強盗事件は、日中の交通量が多い場所・時間帯であっても発生している。また、みかじめ料の要求のような恐喝事件、偽の自動車売買情報や求人広告でおびき出し、その家族に金銭を要求する事件も非常に増加している。さらに、SNSを通じて知り合いになり、飲食店や自宅等で飲食をする機会に乗じて、飲食物に睡眠薬を混入させて意識を失わせる睡眠薬強盗被害や、警察官に成りすまして職務質問を装い金品をだまし取る、道路に「まきびし」をまいてわざと運転中の車両のタイヤをパンクさせ高額な修理業者を紹介する、いわゆる「ぼったくり」行為等、様々な手口の犯罪もこれまで同様発生している。

このように身近な場所での犯罪が増加しているため、日頃から犯罪被害に遭わないため、十分な警戒が必要である。

具体的には、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとしてはいけない。

#### （2）邦人犯罪被害事案

- ・ 4月上旬、観光でメデジン市を訪れた邦人がアプリを通じて女性を呼び、宿泊先の部屋に招き入れ歓談していたところ意識を失い、翌朝気づいたところ女性は立ち去っており、所持していた財布（現金・カード等在中）、スマートフォン、パソコン等の貴重品がなくなっていた。
- ・ 6月上旬、ボゴタ市で、アプリで知り合った女性を自宅に招き入れ飲酒していたところ急激な睡魔に襲われ眠り込んでしまい、翌朝気づいたところ女性は立ち去っており、現金やカード類、スマートフォンがなくなっていた。確認したところ、当地の銀行口座の他日本の口座からも多額の現金が引き出されていた。

### 2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2023年上半期のテロ行為等は前年対比64%減少したが、これは、前年の数値が極端に多かった（武装ストライキ等により極端にテロ行為等が多かった）ため減少しているかのように見えるものであり、従来どおり警戒する必要がある。

ペトロ大統領の呼びかけにより、多くのゲリラ組織や武装犯罪組織が和平交渉に応じる姿勢を見せているが、これら組織の活動が活発な地域では警察署や軍の基地

等、治安部隊に対する攻撃は相変わらず発生していることから、こういった場所に不用意に近づかないことが大切である。また、最近、恐喝事件に絡み、金銭の要求に応じない被害者を脅すため爆発物を投てきする等の行為も見られる。

なお、近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では2017年6月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019年1月、市内の警察学校内で学生22名が死亡するELNによる自動車爆弾が発生しているほか、上述の2022年3月26日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（CAI）の爆弾テロでは、付近にいた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

## 2023年

- ・ 4月5日 カウカ県カロト市で、バイクに乗った被疑者が警察官に対し爆発物を投てき、1名が負傷。
- ・ 4月12日 アトランティコ県バランキージャ市の飲食店に爆発物が投げ込まれ、物的被害が発生。
- ・ 4月15日 アトランティコ県バランキージャ市で、バイクに乗った被疑者が道路に爆発物を投げつけたが、爆発せず治安当局が不発化処理。
- ・ 4月18日 アトランティコ県バランキージャ市で、飲食店に爆発物が投げ込まれ、市民1名が負傷。
- ・ 6月28日 カウカ県ポパヤン市で、警察署に投げ込まれた爆弾が爆発し、警察官2名が負傷。

## 3 誘拐・脅迫事件発生状況

2023年上半期の誘拐事件は173件と増加（前年対比163%）している。また、恐喝は5,261件で増加（前年対比35%）している。

ELN等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。恐喝事件は身に覚えのない連絡先から脅しのメールやメッセージが届き金品を脅し取るケースが散見されることから、安易に脅しに乗らず、必要に応じて警察や検察に相談することが必要である。